

Title	第十九世紀に於ける独逸經濟發達の一斑 (五、完)
Sub Title	
Author	高島, 佐一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.12 (1915. 12) ,p.1446(110)- 1461(125)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19151201-0110">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19151201-0110</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 第十九世紀に於ける獨逸 經濟發達の一斑 (五完)

高島佐一郎

## 目次

- 八、同世紀中葉に於ける市況隆替
- 九、銀行と株式取引所との接近
- 十、銀行及工業の相互的集中

## 其八

市況活躍、大景氣、恐慌、沈滞、平靜の市況循環旋紀は資本の大蒐集經濟の大發達益々熾烈なるに伴ひ愈々繁く且強かる可きは自然の數に屬し、獨逸の近世經濟界亦此數に洩れず。

第十九世紀中葉に出現したる熱狂的大景氣に就ては吾人既に見たり。政治的紛争に依り永く阻止せられたる鬱勃たる企業的精神は、キャル

フォルニア及濠洲の大金鑛發見と、銀大産出を追隨し來れる墨其西哥の大水銀鑛發見とに依りて突如勃發の機會に乗じたり。當時其國際貸借關係常に順調を示せる獨逸には是等の貴金屬滔々として流入し來りて、普魯西銀行に於ける個人預金は忽に倍加し、又同行の保有金銀高は一八五一年一月一日乃至同年十月末に百五十萬磅より三百五十萬磅に増大して貸出業務の幼稚なる同行は爲す所を知らず、茲に前後に其比類を發見し能はざる窮策に出で、預金者に對し其預金を引出す可き通告を發したり。

註、貿易上の順調 Aktivität der Wirtschaftsbilanz が金の流入を誘ひ、又其逆調 Passivität der Wirtschaftsbilanz が金の流出を誘ふとは世人の周知する所なりと雖も、輸出入の差額 Warenverkehrsbilanz の如何、更に適切に總國際貸借の均衡の如何に拘らず、金の流入の行はるゝことあるを注意す可し。即ち

金は金融業者の神經中樞に一種魔睡的效果を齎らすの特質を具有するを以て、縱へ一國の爲替相場が金輸入點に達せずとも、銀行業者は少許の損失を賭して之を輸入し、以て金融市場に緩和劑を供給し或は株式市場の買方の策戦に資することありとす。斯る投機的金輸入は紐育に於て屢々目撃せらるると謂ふ。

(Withers, op. cit., pp. 151 ff.) されば本文の如き國際支拂關係既に順調にして爲替相場上金の輸入を誘致する原因存するに於ては、必ず金の流入を見自づから信用の膨脹を伴ひて一般經濟界に狂熱的影響を與ふるの傾向ありとす。

市況奔放の次に來る可き徑路は經濟學の命題通りに現はれたり。一般物價企業利潤勞働賃銀企業利潤鐵道收入國家歳入凡そ著大の上進を劃せざるなく、殊に勞働は此好機に乗じて其頭を擡げ頻りに資本に對して脅嚇を試み屢々同盟罷

工の策に出でたりしが、一八五七年の大恐慌を惹起し、物價は暴落し信用の礎石は動搖し、各般の經濟的秩序恢復せられ企業及投機に再び新刺戟加はるの日を睹んには更に數年の沈滞時期を経過せざる可らざりき。六十年代に至りて市況復活を示したりしが、間もなく普佛戰爭の破裂するに會し、一方消費貨物の大需要突發すると同時に他方資本信用の缺乏の一般經濟を壓迫するあり、經濟全組織破壊せられて混沌たる狀況を呈したり。然るに普魯西の遂行したる掃蕩的大戰勝を終結せる平和條約の成立は茲に獨逸の政治經濟上の一新時期を劃し、大戰に依りて勢力威名と民族的結合とを獲得せる獨逸新帝國は更に進みて佛蘭西の償金二億萬磅の流入を以て一般社會に無前の熱狂的效果を興へたり。經濟界は未曾有の好況を呈し物價は大暴騰を示し、多數の成金者流は投機及起業に依りて其巨産を作れり。一八七〇年央乃至一八七四年末に

は諸般企業の發起擴張の接踵殺到せるを見る可く、一八五一乃至七〇年央の十九ヶ年年には僅に會社總數二百九十五資本總額十二億二百萬磅の設立せられたるに過ぎざりしが、右の戰後四ヶ年年には八百五十七の新會社の十六億五千三百萬磅の資本金を齎らし來れるを睹たり。

乍併經濟界隆替の筭書通りにも、商工業會社の解散破綻清算手續は一八七三年以後頻々として踵を接し、長き躊躇試験の時期之に追従し來れり。然れど此沈靜時代こそ慥に經濟界の根本的覺醒を促し、之に訓ふるに堅實なる企業經營の尊重す可きことを以てせるものにして、同國上下最大の努力は専ら全經濟組織を改善完全ならしむる方面に傾倒せられたり。

次に一八七一年以降リーサー博士の謂ゆる通貨 *Zahlungsverkehr* の方面に於ける施設を瞥見すれば、金を基礎とせる統一的通貨制度は先づ一八七一年四月十六日の帝國憲法第四條及之

を承けたる一八七三年七月九日の貨幣法、一八七四年四月三十日の帝國國庫紙幣法並に一八七五年三月十四日の銀行法の實施に依りて完成を見たり。殊に一八七五年の銀行法に準據して翌年一月一日を以て創設せられたる帝國銀行は實に事實上唯一の統一的銀行券發行機關たる使命を擔へるに止まらずして、英蘭銀行の小數支店制の踏を襲はず漸次全國に亘りて五百有余の大支店網を張り、謂ゆる預金振替の樞座として全國商工業全社會と密接なる金融關係を開拓するに至れり。

註、獨逸帝國の統一的通貨制度完成に至れる政治的經濟的徑路は「帝國銀行二十五年史」及リーサー博士の名著に明なり。(The Reichsbank, 1876-1900, pp. 14-21 Riser, a. a. O. S. 127 ff.) 茲に一言す可きは、右の「帝國銀行二十五年史」の英譯は單に一九〇九年六月一日の銀行法改正正文を附加せるのみな

らず、同年までに行はれたる新事實を凡て傍註として添附し面目を一新したる事實なりとす。

一八七三年の獨逸に於ける恐慌商工業諸企業の崩壞の與へたる慘害と教訓とは正に一八六七レヂ・モピリエの與へたる慘害と教訓とに似たり。而してリーサー博士は其建設的及破壞的效果の双方に刮眼を開きて詳論大に努めつゝありと雖も、後者の失政害毒を批難して完膚なからしめたるものにアイカルドの「クレヂ・モピリエ十六年史」(Aycard, Histoire du Crédit Mobilier, 1852-1867)あるが如く、前者の流布したる慘害を極論せるものに法學の泰斗イエリッング教授の「法の目的」(Theising, Der Zweck im Recht)あり悲調慨然として「無謀無策の是等數百の投機的株式會社が尊重す可き私有財産を蹂躪したる危害慘毒の熾烈なるは、正に大火饑饉凶作大地震戰亂暴敵祖國占領の相合勢して國民の福利繁

榮を荒廢せしめたるよりも甚しとす」と高調す。リーサー博士が教授の大著を害ふものと吝みたるが如く、積、消極の兩端と現象全體を達觀して後に下す可き學問的論戰としては見る可らずと雖も、其一世に流したる害毒の程度を知る可し。(Riser, a. a. O. S. 44-50) 實に本書の論ずる如く一八七三年の恐慌が與へたる教訓極めて貴重なるものあり、獨逸に於ける爾後堅實なる經濟的大發展は流源を之に掬めるものとす。

### 其九

從來株式會社の經營し來れる鐵道幹線網が軍事並に財政上の理由より國有國營の制度に改めらるゝこととなり、一八七九年を以て買収に着手せらるゝや、舊鐵道會社株主の大部分は選擇的に提供せられたる鐵道公債に其資本を放下することを躊躇したりしかば、一時的乍ら放資の轉換上深甚の影響を齎らし來れり。

鐵道買収の商議公然政府に依りて開始せらる

に伴ひ自づから鐵道株の投機熱を煽り、當時獨逸の各株式取引所には人氣の熱狂的沸騰を顯したり。取引所内買方に廻れる投機業者が鐵道株相場を買煽りて、相當價格を以て買収することを妨ぐる所ありしや、主務大臣マイバッ氏は帝國議會に於ける演說中株式取引所を以て經濟界の毒草とまで極言したりき。マイバッ氏の激越せる此所論は會々取引所に烙印するに私利以外眼中國家なく公共なき投機業者投機操縦者の徒輩を跳梁せしめ、彼等をして一般社會の利益を犠牲として暴富を積ましむる無用の施設なりとなし、斯くて株式市場に對する偏見敵對の空氣を創造し濃厚ならしめ了んぬ。實に株式取引所に對する反感は此時より益々熾烈且一般的となり、政府は遂に農業黨の主張に聽きて一八九六年取引所法を發布し、種々峻嚴苛烈なる立法的制限を定期取引上加ふるに至れり。就中、鑛工業諸株式を定期取引に上すこと

を得ず、其他の株式は其資本金百萬磅以上なる場合に限り定期取引に上し得る旨を規定して定期取引に打撃を加へ、又取引に關しては其營業に屬せざる人の無經驗無思慮を利用し自己の利益を貪るが爲め之を取引所内投機取引に誘導するを常習とする者に禁錮刑及罰金を課し尙公權を剝奪することある可しと規定して狡猾薄資の仲買人の行動を制限し、更に他方に於ては株式取引に對し印紙法及契約締結税を適用し、取引所及仲買人に壓迫を加へて假借する所なかりき。げに「株式取引所は其吸取れる公衆の膏血を吐出さざる可らず」とは久しき間社會に行はれたる輿論たりしなり。而て國民の富力益々上進し商工業發達し資本流動の必要愈々加はるに従ひ、政府及一般公衆が始めて流動的資本の公開市場としての株式取引所の必要及重要な職分を認識し、自づから取引所政策上にも幾分の緩和を示し更に取引法中の或者が廢棄せらるる

に至りしは僅に近年の事に係る。

註、惟ふに資本主義株式組織主義の一代の風潮を爲せる時代に於て市場中最も重要且廣汎なるものは株式市場たらざることを得ざると同時に、株式市場の株式市場たる所以は其盛に投機取引を營むに存す。されば定期取引に對する政策は必ずや當局智識を傾倒して吝む可らざる所に屬し、苟くも偏見感情に擒はるゝを容さず。而て一八九六年獨逸取引法の苛酷に失したるは言を俟たずして、一方不確實の仲買人を驅逐せると同時に、他方直取引の現金需要の増加は九五年中盛に増資を敢行したる大信用銀行の取引所支配力を助長したる外、依然職業的投機業者は直取引の假面の下に盛に繰延勘定直取引を行へると同時に、制限外の證券に對して定期取引を營めるを見たり。

佛蘭西の碩儒クルノーの謂ゆる「市場なる

語辭に依り經濟學者は物件の賣買せらるる特定の場所を指さずして賣買者が自由に交通し同一貨物の價格が容易且迅速に均一せんとする全地域を指稱す」(cited by Marshall, op. cit., p. 324) の見解に従へば、最高に組織せられたる市場はマーシャル教授の説けるが如く株式並に貴金屬市場たらざるを得ず。蓋し國際的有價證券及貴金屬は市場取引物件の具備す可き一般的需要、代替性並に移動容易性を完備するものたればなり。(Marshall, op. cit., p. 320) 而して貴金屬殊に金の市場が世界と同擴的たるは更にも言はず、有價證券に至りても其謂ゆる國際的なるものありては、少くとも各文明國と同擴的市場を有すること争ふ可らず。如何となれば國際的の有價證券に就ては電信の利便のあるありて世界の凡ての株式取引所に於ける相場を殆ど正確なる同一平準に維持す可く、ホイラーが細叙したる



裁定投機取引者 *arbitrageur* の活動す可き隙を生せしめざらんとするは現今の趨勢なればなり (See Marshall, op. cit., p. 327; Wheeler, The Stock Exchange, p. 81) 然り、而て此株式市場裡の各種取引中、理論並に實際上最も重要なものは遂に投機取引を推さざる可らず。蓋し取引所存在の第一義は適正なる價格決定 *Preisbildung* 及公定相場附 *Preisnotierung* を爲すに存し、此二要件を盡して完からんには、市場裡、市場騰貴を見越して先物を買はんとする強氣 *bulls* と其下落を豫想して定期を賣らんとする弱氣 *bears* の多數註文湊合殺倒し、群集判断の適正なる焦點を構成することを要すればなり。佐野博士が其最近業績に冠するに「取引所投機取引論」の名稱を以てせるは蓋し此點を重視したるものに依らざらんや。我が取引所特許繼續問題は曩に解決せられたりと雖も、將來何れの日か取引所投機取引の

問題發生するの曉、吾人は常に取引所の取引所たるは其投機取引を營むに依りて完きことを體し、苟くも一八九六年獨逸取引法の轍を踏まざらんことを要す。

其十

一方に於ては商工業間、他方に於ては銀行及取引所間の關係が斯くして益々密邇熾烈なるに従ひ、工業的發達は愈々高踏して工業的企業は益々大なる設備擴張の資本を必要とし、同時に經營資金の需要は長足に増嵩す可し。此時に當り銀行及取引所の合成機能が、汎く新企業の設備資本、既存の工業的企業の擴張資本或は組織變更の所要する資金を調達するに必須缺く可らざるに至るは勢の趨く所のものたる可し。今八十年代に創設せられたる電氣工業を採りて一瞥すれば此種企業に投下せられたる資本は漸次非常の巨額に達し、一八八三年廿五萬磅の資本を以て創設せられたる伯林一般電氣會社 *Allgemeine*

*Elektrizitäts-Gesellschaft* は今や株式資本七百七十五萬磅、社債資本四百七十三萬七千五百萬磅を有する外三百十萬磅の公積立金及殆ど同額の内部積立金を擁す。化學及染料工業其他有ゆる工鑛業に於て同様の資本的集中を見ざるなし、而て從來専ら商業的又は經營的資本調達に關はり來れる銀行企業は、一八七五年以降工業的生產に對し益々著大の影響勢力を及ぼすに至れると同時に、商工業銀行業の全組織も、第十九世紀に入りて愈々著明を加へたる工鑛業の集中運動即ち合同、聯合、併合、協定利益共同聯合、*Interessengemeinschaften* 等の狂奔的運動の熾烈なるに伴ひ、漸次革命的變遷を繼續したり。即或種の企業に集中行はるれば之の取引の衝に立てる他種の企業に於ても經營上の必要並に心理的感染の結果自ら集中運動の斑に列し、有ゆる資本的企業全組織は因果關係を保ちつゝ、接踵して集中結合大企業大經營の狂瀾に乗じ復た舊觀

を止めざるに至る。リーサー博士が「獨逸大銀行論」第五編「銀行業及工業企業に於ける集中の相互的影響」は此間の關係を詳叙して洩す所なし。思ふに製造業製鐵業電氣工業化學工業採炭採鑛冶金業等有ゆる企業上に行はれたる集中結合の目的は、凡そ自由競争が齎らす收利力上の損害を輕減若くは絶滅し、或は販賣條件を改善又は有利ならしめんと爲すに於て一致す。之と同時に職工組合又は労働組合亦整然たる一労働組織として現れ來り、労働者の利益を代表し労働に對する最恰好の代價を確保するに最大の努力を吝まず。三轉して消費者を顧みれば其組合を経由し集合的購買に依りて最善の條件を生産者と協定し以て其地位を保護改善せんとする消費者階級の運動も亦時を同うして發生し其團體的勢力侮る可らざるものありとす。

註、工業と謂はず銀行業と謂はず、近世資本的企業の全領土の組織根底を洗へる集中へ

の傾向 Konzentrationstendenzen の由來する所、大觀し來れば有機體發展の理法、大數の法則を認識して收利率の増嵩經營確實性の充實を要目とするものたるに過ぎず。ランスブルヒが秋毫も銀行の分業主義を認めず、信用銀行が小農工商に薄くして専ら大企業と結合し遂に獨逸全土を工業化せしめたるを切々批難せりしに應酬したるリーサー博士は「獨逸の工業化を以て獨り信用銀行が遂行したりと爲すは正鵠を得たるものにあらずして、實に何者の力も抵抗す可らざる勢力を以て作用したる根本的經濟理法原因より來れるものとす」と論じたるは儘に肺腑に徹す可き至言たるを失はずと雖も (Riser, a. a. O. S. 206) 同博士が其大著の央ばを擧げて闡明に努めたりしが如く、工業界の集中運動と銀行界の集中運動とは雙翼的因果關係を有せるものたることは蓋し

炳焉たる事實に屬し、本書第四章も之を研究するに餘念なし。  
本文未段の近世資本主義の齎し來れる團體的抗爭及調和に關し、曩に屢々引用したるアッシュレー教授の近業卷末に與へられたる思想は親切且中正の一見識たるを失はずして紹介するに堪ゆ。(Ashley, op. cit., pp. 100, 101.) 其要に曰く「社會は今や雇傭者被傭者雙方に適合調和す可き工業上の團結的組織の成立に努力しつゝあり。渾然たる此組織完成の日、社會全般の利益を防衛す可き慧敏聰明なる近世國家の後援と相結びて一層調和的に作用運行す可きことを疑はず。世界は未だ完全なる個人主義を目撃したることなく、又將來久遠に社會主義の實現せらるゝとなからん、蓋し利己的感情は社會的感情と相併びて永久に滅びざる人性の根本的要素なればなり。斯くて各時代に

適應せる此二衝動の解決的調和的妥協交讓は其時代時代に發明せられ創成せられざる可らずとす。吾人はもはやハーバート・スペンサーが「人類對國家」中此二者を抗敵的存在として誇張したる舊き利己主義の對保觀には何等の權威を繋ぐる能はず、團體の活動及其相互關係を規律す可き明確の一地位は、必ずや我社會組織隨て我社會學原理中に發見せられ、個人及政治團體の中間に位せざる可らず。是れ實にシンデカリズムの狂瀾を突破するに緊要缺く可らざる貴重思想にして、又應てギールケに依りて試みられたるが如く經濟史研究上に据充せられたる社會組織の新哲學が訓ふる所なりとす」と。寔に利害を共同にする多數人類が結合することは自己を保有せんとする動物的自然的衝動に基づくのみならず、カントの謂ゆる實行的理性の存在に依るもの、隨

てトーマス・ホップスが自己主義の哲理觀を根底として人類の原始狀態は「總ての人に對する凡ての人の戰爭の有様」Bellum omnium contra omnes. と論せりし如き狀態を今の世に残存せしむるは斷じて近世文明の汚辱たる可く、人類に道德的理性の存在する限り、各國體間にも大なる調和を顯現せしめざる可らずとす。而て今の抗爭は結局の大調和に到達す可き歷程ならざらんや。  
殊に第二十世紀の初頭以降合同、併合、聯合、利益共同聯合殊に後二者は工業界の有ゆる企業經營上一種の抵抗し能はざる一大流行となり、少くとも或種の工業殊に製鐵採鑛冶金電氣工業にありては殆ど完全なる獨占的狀態を惹起したり。而て斯る資本及勢力の集中結合 Machtkonzentration は單に同一性質の企業に限局せられずして、大企業は溯りては其生産過程上に必要な貨物を生産供給する企業又下り

ては其生産上自家製品の供給を受くる企業上に支配權を延長獲得し、強大なる企業は劣弱なる多數企業を直接間接に併合するに依りて完し。蓋し是れ曩に述べたるが如く、先づ自己の集中膨脹を行ひ、外に延びて縦面的集中を試み、更に進みて横面的集中を成就し、合縦連衡の實を完するものなり。例へば大製鐵會社が嘗に採鑛製鐵鋼に其經營を止めずして、かの炭價に決定的勢力を揮へる賣炭聯合組合より獨立せんが爲に炭抗を買収して謂ゆる混合工業を構成するが如き、又は普魯西政府が鐵道經營者として石炭の大消費者たるより大炭山の所有權を獲得したるが如き是れなり。

此種著大の經營上の革命は亦卸賣及小賣商にし波及したり。フランクフルト、ライプツヒ其他交通上の要衝に於ける市の重要は殆ど消滅し盡し、僅に特殊の商品が猶ほ未だ之に依頼するを便利とするのみ。輕便なる旅行低廉均一なる

る市内交通電信電話新聞廣告其他有ゆる交通利便の發達普及は他くまで生産者と消費者とを相互接近せしめざれば熄まざらんとする時、卸商の地位益々維持するに難し。即ち製造業者は其專屬の販賣代理者を経由して小賣商に賣渡せばなり。殊にヴェルトハイム、チエッツの如き米國のワナメーカ<sup>Wanamaker</sup>又はマーシャルフィールドにも劣らざる大店舖式小賣商店が益々盛に勃興し來り、數十百の製造會社殊に財政の劣弱なる製造業者の上に支配權を延長し有ゆる種類の商品を手廣く販賣するに至りては更に然りとす。此他郵便註文、目錄販賣、賦拂販賣等が小賣界の流行となり。又消費者團體間の購買組合の漸次普及するに至りては、嘗に卸賣商のみ謂はず小資本の小賣商も亦危機に瀕せりと謂はざる可らず。

註、本文前段の謂ゆる縦、横面的集中とは各々アッシュレー教授の謂ゆる積分的集中

Integration 及獨占的合同 Monopolistic Combination に相當するものなることは曩に註せり。

米國工業界の寵兒を合同 Trusts にありとすれば、獨逸工業界の嫡子は必ずや聯合 Kartelle にあらざる可らず。リーサー博士は、卓越せる經濟學者ブレンタノ教授がカルテルを呼びて「必要の「産兒」 Kinder der Not」と謂ひ、「前時代に於て流動資本が生産上最も重要なりしに對比し、今時代に於て固定資本の不斷の増大が經營上必要となれる點にこそカルテルの必要は其深き根柢を有す」と論じたるを引用して、教授の所説は販賣カルテルを説明するに不適當なれども、生産カルテルの成立の根據を示すに於て遺憾なしと爲し、隨てゾンバルト教授が多數のカルテルは唯恐慌後に成立し時に好景氣の開始期に當りても成立すと論

證したるは首肯し得可らずと論難し、徐に「大多數の場合に於てカルテルは必要の「産兒」たるか、又は少くとも必要の影響若くは餘働に依りて必然的に發生するものとす」と論定したり。(Rieser, a. a. O. S. 146) 吾人淺學固より一語を挾むを好まずと雖もカルテルも他種の企業集中の形式と等しく資本制的企業の經營に殆ど常に隨伴せる一組織たるを認むるに於てブレンタノの必要の産兒説に大同せざる可らざるを覺ゆ。カルテルは或一定期間、同種工業又は同一の利害關係を有する工業に屬する獨立の企業間に契約を以て設立せられたる團體にして各組合員は各自其獨立を留保しつつ、共同の利益を助長せんが爲めに生産並に販賣を調整し以て市場を支配するを目的として聯盟するものとす。されば少くとも外形及法律上カルテル及トラストは明劃に區別せ



られざる可らず。蓋し縦へ同一目的を有すとすも、後者は各自の獨立を犠牲とせる企業の永久的且組織的團結にして、必ずしも同種工業に屬するものたるを要件とせず。單に共通の利害を頌つを以て足るものなればなり。而してリーサー博士の説明する所に依れば、カルテルが克く且つ速に成立するものは、採鑛冶金化學工業等の如き原料貨物を大量に生産する工業にして、且既に資本的又は地方的に集中したる少數の大企業謂ゆる巨人經營 *Rieserbetriebe* を以てせらるゝ工業なりとす。此二要件即ち原料貨物の大量生産並に少數の大企業の併存を缺ける場合に於てはカルテルの成立は困難なるを免れずして、殊に多數の中小企業更に散在せる中小企業が、大經營の企業 *Grossbetriebe* と併存する場合に然りとす。(*Rieser, a. a. O. S. 147.*) 以上長大の脚註を以て讀

者を累せる所以のものは、嘗に此集中形式が獨逸工業界に著明なるが故たるに止まらずして、此カルテルの祖國たり之を工商界の名産とする獨逸の銀行界の集中形式も亦此影響を蒙りたること尠少ならざるものあればなり。

本文に謂ゆる混合工業と言ふ。混合工業益々盛なる獨逸の銀行界の特徴は亦其混合銀行たり兼營銀行たる *Kombinierte oder gemischte Banken* に存する事實を注意す可し。(*Vgl. Rieser, a. a. O. S. 24.*) 尤も混合工業の最高形式は言ふまでもなく雄渾なる横面的集中を完行せるトラストたらざることを得ずして、此意味に於て混合的大經營は合衆國製鋼會社 *United States Steel Corporation* を最大なるものとして、米國工業界に最も饒多なりとす。ニジニノヴゴロドは須らく言はず、中世

及近中世の獨逸に於て市 *fair*, *Messe* が當年の經濟生活上如何小重要な役割を演じたりしやは、大史家カール・ランプレヒト教授がザクセン一帯の地域を指して「ライプツヒの市の地方」*dem Lande der Leipziger Messe* と稱せざるに想到すれば思半ばに過ぐるものある可し。(*Rieser, S. a. a. O. S. 34.*)

工鑛業界に於ける組織的地方的並に資本及勢力的集中運動の熾烈なると雁行して、我銀行界の地方的並に資本及勢力的集中運動は間斷なく其行程を進め來りしが、一八九五年中、大銀行の増資頻りに行はれ、更に一九〇一年に於ける恐慌は小銀行の破綻を暴露し、此機會に於て大銀行の敢行したる市場救済の奏功するや、銀行集中運動は俄然其加速度を急調にし今や燎原の火勢の如く其底止する所を知らざらんとす。今集中の種類形式をリーサー博士に尋ねれば、博

士は先づ場所的集中並に資本及勢力的集中に大別し、又資本及勢力的集中の形式を直接的集中並に間接的集中の二法に別ち、前者中最も簡明にして獨逸銀行界に最も通有の形式としては資本金の増加を擧げ、次には斯くして集中せる大銀行が小銀行及簡人銀行を併合買収するものを數へ、第三には獨逸特有の形式とも謂ふ可き永久的なる利益共同聯合を嚮指し、去りて後者を以て支經營 *Zweigbetriebe* 又は經營の分散 *Dezentralisation des Betriebes* に依りて勢力の集中を行はんとするものを意味すとす、匿名組合支店、出張所及預金所の設置を配當したり。斯の如くして資本及勢力的集中は有ゆる形式者案の下に實現せられ、恐慌又は財界動亂ある毎に發生する小銀行簡人銀行の破綻及大銀行の集中は嚮指するの煩に耐へざらんとす。一九〇一年の恐慌に於て然り、一九〇七年の米國恐慌時に際して然り、近く一九〇八年のバルカン戰亂の



際に於て亦然りき。大銀行は益々大銀行となり集中運動愈々熾烈なると同時に、一般的工業企業との關係は爾今密接に織成され、今や實に銀行家銀行重役支配人が銀行の利益を代表して工業諸會社の重役會に列するのみならず、又謂ゆる工業界の將師 *captains of industry* にして其關係ある大銀行の取締會に椅子を占むるもの尠なからざるに至れり。斯くて銀行界の單位膨脹は工業界の單位膨脹と提手して遮るものなき大道を驀進し、集中運動 *Konzentrationsbewegung* の範圍と速度とは銀行及工業間の關係の厚薄に依りて決定せられ、銀行集中 *Bankkonzentration* と工業集中 *Industriekonzentration* とは密接に相因果し、大經營 *Großbetriebes* の裡には必ず大銀行 *Grossbanken* の潜めるを發見す。伯林に於ける三大銀行は各々株式資本金一千萬磅を擁有力し總計一千二百六十一萬五千磅の公積立金及一億五千二百二十九萬磅の預金を有し、又在伯林

の九大信用銀行の株式資本金は合して六千二百五十萬磅に達し、積立金及預金の總額は各々千九百五十六萬七千磅及二億四千三百萬磅に上る。

茲に興味ある一事實は晩近益々出でて益々顯明たる此經濟的大發達に會し最も保守的思想を因襲し來れる獨逸貴族を驅りて、商工業上の各種企業に關與するを以て汚辱なりとする從來の感想觀念を一抛せしむるに至れる現象なりとすげに謂ゆる碧血を血管に濺す貴族たるものが、其種類の如何に拘らず苟くも商工業に關係するは斷じて華胃の氣品を失墜するものたりとは、永く彼等の頭腦を支配せる感想に屬したり。然るに如今資本主義の狂瀾滄溟として我經濟生活更に進みて社會生活の根柢を洗ひ來れるや、近比巨萬の資産を遺されたる進取果敢の一公爵の如きは自ら其世襲の一重要事業の陣頭に立てるのみならず、更に進みて金融及工業上の多數企

業に關與し爲めに家産を傾けて顧みず、世俗華胄階級の經營に成る此種の企業を以て王公合プリンセス、トラスト同と通稱するに至り、又貴族階級者が好みて謂ゆる成金階級 *upstart, Emporkömmling* と婚姻關係に入るの寧ろ常飯事と化したるに至りたるは、かの獨逸民族の保守的傾向を知悉するものが驚嘆禁止能はざる所なりとす。

一般市況殊に投機金融市況に壓倒的威力を揮ふ所の黄金産出高に於ける軌近の激増、即ち一八九〇年の年産額の二千五百萬磅に比較し今年額一億萬磅を超へたる此世界産金高に於ける激増も、亦無前の大威力を卒るて世界的に經濟的發達を助長し刺戟しつゝあることは明白なると同時に、一國通貨組織更に廣汎に一國信用全組織の基礎を構成し之が鞏固安全を支持す可き文明國各中央銀行金保有高に於ける増加率が、如上軌近産金額上の増加に伴ひ得ざることも亦争ふ可らざる事實なりとす。而て此中央銀行金

準備充實こそ各國殊に近年異常の經濟的發展を遂げたる獨逸金融經濟上焦眉の一研究問題として朝野上下の注意を集め、不斷其改革案充實策の講究實施せられつゝある所のものなりとす。以上大略乍ら一八〇〇年以降今日に至る獨逸經濟發展の軌跡を辿り得たり。

惟ふに獨逸の國民經濟及銀行の組織及經營は各國少くとも當英國の實際界及論壇に於て從來屢々峻烈且深刻の疑議論争謬見を惹起したる一大問題たり。惟ふに英國人が往々論難を加へたる如き組織及經營上の缺陷弊害は幸に獨逸金融界の所有せざる所なるを信ずとは雖も、銀行殊に信用銀行の地位は時に或は緊張せられ或は危機を胎めることなきを斷定し得可らず。黑白孰れにするも、以下數章に亘りて展開せんとする獨逸國銀行の組織及經營の概観は、讀者各自をして其果して英國預金銀行制度に比較し堅實將又危殆なるかの意見を結構せしむるに耐ゆ可きを庶幾ふ。(完)